

パネル展「関宿周辺 歴史探検」

このたび、パネル展「関宿周辺 歴史探検」を開催し、野田市関宿と隣接する茨城県五霞町および茨城県境町の史跡などをご紹介します。

この三つの町は単にお隣りどうしというだけでなく、いろいろなつながりがあります。ガイドブックにはあまり載ることのない場所にも、その土地の歴史を伝えているものがあります。この展示から少しでも興味を持たれたら、ぜひ一度現地を訪れてみてはいかがでしょうかでしょう。きっと新しい発見が見つかるでしょう。

三つの町の位置とつながり

千葉県最北端にある野田市関宿と茨城県西南部にある五霞町、境町は利根川と江戸川に接しています。この地域はかつて縄文海進の時は五霞町の西南部まで江戸湾が入れ込み、境町の東南部は太平洋と接していました。今回ご紹介する地域は、関宿を中心とした二つの内海には含まれた場所です。

この三つの町は中世には古河公方の支配下でしたが、小田原の北条氏が北関東に進出してくると共に北条氏と戦いました。

北条氏滅亡後三つの町は関宿藩領に組み込まれました。この地域は江戸時代初期に利根川東遷によって多くの船が行き交い河岸も栄えましたが、同時に洪水に悩まされ、河川の改修工事は平成の時代まで続きました。



1 野田市関宿

関宿という地名が広く知られるようになったのは、古河公方の重臣の築田成助（やなだしげすけ）が長禄元年（1457）に関宿城を築いてからのことです。

築田氏は北関東に進出してきた北条氏と争いますが三回の籠城戦の末に敗れました。北条氏滅亡後は松平康元が配置されて関宿藩が置かれ、城下町として整備されました。

関宿では利根川と江戸川・権現堂川が集まり、河岸が発達し関所も置かれました。関宿は城下町としてだけでなく水陸の交通の要衝として江戸時代に大変賑わいました。



上 かつての本丸跡に建つ関宿城石碑

左 野田市内に残る関宿城の城門 関宿城埋門



城下町として賑わった江戸町の町並み

2 五霞町

茨城県の西南に位置する五霞町は、かつて町の西から南にかけて東京湾が入り込むなど、町全体が低地でした。町内には貝塚が残っています。町の南西部に権現堂川、北東部は利根川と逆川と町全体が川にはさまれた島のようになっていました。

中世には古河公方の重臣の野田氏が栗橋城を築きますが、北条氏によって攻められ落城しました。北条氏の滅亡後は関宿藩領になりました。利根川東遷後は利根川と権現堂川という水運を利用し交通の要衝として発展しました。

明治以降利根川と江戸川の改修工事が進み、昭和2年に関宿水閘門が完成し、水害の軽減に大きく役立ちました。



野田氏の居城 栗橋城跡

左 現在は締め切られ調整湖となった
権現堂川

右 五霞町山王の江戸川流頭部に設
置された関宿水閘門



3 境町

茨城県の南西にあり南に利根川と接する境町は、かつて町の東には太平洋の入り江があり、北から南にかけていくつかの沼と細い台地が錯綜していました。

中世は長井戸に菅谷氏の居城がありましたが、小山氏や北条氏の侵攻を受け落城し、その後町は関宿藩領に組み込まれました。

江戸時代初期に利根川東遷によって境河岸が発達し、日光東往還も通るなど水陸の交通の要衝として多くの人を訪れました。ただ大河の流域にあるため五霞町と同様に常に水害に悩まされていました。

明治期も蒸気船の寄航地となり、自動車が普及するまで多くの人で賑わいました。



利根川左岸の船着き場付近
対岸の関宿の町並みが見えます。
現在遊覧船は運休しています。



水運で栄えた境河岸の町並み
この街道はかつての日光東往還で宇都宮市に至ります。



長井戸香取神社境内に残る
長井戸城跡
折れ曲がった土塁や空堀が
よく残っています。